

平成27年度 第1回

四国地方整備局新技術活用評価委員会の開催 ～有用な技術が育成し、社会に還元されるために～

四国地方整備局は、有用な民間等の新技術の公共工事等への活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査及び事後評価等を実施するための『四国地方整備局新技術活用評価委員会』を以下の要領で開催いたします。

記

「平成27年度 第1回 四国地方整備局新技術活用評価委員会」

日時：平成27年9月9日（水） 13：30～15：30

場所：サンポート合同庁舎 低層棟 2階 アイホール

【審議事項 概要】

1. 新技術の事後評価（8件）

工事の中で使った結果を基に、技術进行评估します。

今後の工事で採用する時等に、この結果を参考にしていきます。

2. 新技術の事前審査（1件）

テーマ設定型(技術公募)で技術募集した技術を事前審査します。

今後の試行にむけて、技術の成立性の確認を行います。

<取材でのお願い>

新技術の審議内容については、各技術の秘密・特許情報等にかかる事柄があることから、取材は委員会の頭撮りのみとさせていただきます。なお、委員会終了後事務局にて取材に応じます。

平成27年 9月 2日

<問い合わせ先>



国土交通省 四国地方整備局

企画部 施工企画課長 湯佐 昭二 (087-851-8061 内線 3451)

○ 施工企画課長補佐 木下 功 (087-851-8061 内線 3453)

※○：主たる問い合わせ先

～審議技術の概要～

＜事後評価＞

『アクアドレーン(QS-090040-A)』

既設側溝の蓋掛り部にアクアドレーン(スリット穴付き埋設型枠)を設置し、その上へ排水性舗装を敷設することで、既設側溝を透水性を有した暗渠とする技術。

『カラマンチェーンST(KT-100077-A)』

つりチェーンフック部にバネ構造による外れ防止機能を付加した製品(技術)。

『RCF防根シート(TH-100007-A)』

樹木の根の肥大化により躯体、埋設管等を破壊する問題(被害)を未然に軽減する技術。

＜事後評価(再評価)＞

『都市型側溝シェイプアップスリット(CB-990039-V)』

都市型側溝の内空断面を円形から卵形へと変更したことにより、流速が上がり掃流力の向上を図った技術。

『コンクリート製品搬送据付装置「リフトローラー工法」(CB-990105-V)』

狭小、上空制限等の条件下におけるクレーン施工が困難な現場でも、コンクリート製品の搬送から据付までの一連の作業を連続的に行うことが出来る技術。

『リボーン側溝(CG-980014-V)』

プレキャスト側溝における側溝本体と蓋の接触部を曲面にし、蓋の受けを安定させることにより、車両等の通行による騒音の発生を減少させる技術。

『ノンステーキング鋼管矢板圧入工法(KT-000106-V)』

狭隘地や傾斜地、水上などにおいて、鋼管・鋼矢板を仮設レスで圧入施工する技術。

『環境対応型圧入機(CB-060028-V)』

鋼矢板の圧入において、生分解性油脂類の採用、アイドリング切替機構によるCO₂排出量の削減および排ガス3次基準への適合など、環境負荷を低減させた技術。

＜事前審査(テーマ設定型【技術公募】)＞

『RTD-INCOTEST(KKK-140002-A)』

岸壁や栈橋等で用いられる鋼矢板や鋼管杭について、電磁誘導による渦流探傷技術を用いることにより、測定対象に付着・施工された被覆材、貝殻等の海洋生成物を撤去せずに腐食状況(減肉の度合い)調査を行うことが可能な技術。

技術の詳細は、登録が完了しているものについては、以下のURLにて確認できます。

<http://www.netis.mlit.go.jp/NetisRev/NewIndex.asp>

平成27年度 第1回四国地方整備局新技術活用評価委員会

議事次第

日 時:平成27年 9月 9日(水) 13:30 ~ 15:30

場 所:高松サンポート合同庁舎低層棟2階 アイホール

I. 開 会

II. 挨拶(企画部長)

III. 委員長選出

IV. 議 事

1. 平成26年度第3回新技術活用評価委員会の報告等

1-1 平成26年度第3回新技術活用評価委員会の報告等

2. 新技術の事後評価

2-1 四国地方整備局で事後評価を行う技術について

2-2 アクアドレーン

2-3 カラマンチェーンST

2-4 RCF防根シート

3. 新技術の事後評価(再評価)

3-1 今回事後評価(再評価)を行う技術について

3-2 都市型側溝 シェイプアップスリット

3-3 コンクリート製品搬送据付装置「リフトローラー工法」

3-4 リポーン側溝

3-5 ノンステージング鋼管矢板圧入工法

3-6 環境対応型圧入機

4. 新技術の事前審査【テーマ設定型(技術公募)】

4-1 RTD-INCOTEST

5. その他

V. 閉会

「四国地方整備局新技術活用評価委員会」 設置趣旨書

1. 設置趣旨

公共工事に関連した民間等による技術の開発は、公共工事の品質の確保や安全で安心な暮らしの実現、良好な環境づくり、快適で生活コストの安い暮らしの実現等に向けて、民間等の分野における技術開発が促進され、優れた技術が産み出され、さらには、改良が加えられ、社会に還元されていく仕組みを確立することが重要です。

四国地方整備局では、これまでにNETIS（New Technology Information System, 新技術情報提供システム）を用いて新技術の活用を推進してきたところでありますが、民間の技術開発の促進およびすぐれた新技術の活用による公共工事の品質の確保、コスト縮減等を強化・促進するために、学・産・官の有識者により構成される「四国地方整備局新技術活用評価委員会」を平成17年6月29日に設置しました。

当委員会においては、公共工事等への有効な新技術の活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査、現場での試行及び事後評価を実施します。

委員会の運営を通じ、四国地方における地場産業、地域特性を生かした地域貢献ならびに防災・減災が図れることが期待できるとともに、全国の公共工事等において新技術の活用促進を図る事により、民間における技術開発が促進され、良い技術が育成し、社会に還元されるスパイラルが確立され、公共工事のさらなる品質の確保、コスト縮減等が期待できます。

2. 新技術活用評価委員会 委員名簿 (敬称略：順不同)

(大学 5名)

松島 学	香川大学工学部 教授 (構造工学、コンクリート工学、信頼性工学、景観工学)
吉田 秀典	香川大学工学部 教授 (構造工学、地震工学、維持管理工学)
伊福 誠	愛媛大学 名誉教授 (海岸工学、自然災害科学)
高木 方隆	高知工科大学システム工学群 教授 (国土情報処理工学)
渡邊 健	徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 准教授 (コンクリート工学)

(産業界 3名)

- (社) 日本建設業連合会四国支部 技術委員会 委員長
- (社) 建設コンサルタンツ協会四国支部 企画部会 部会長
- (社) 日本埋立浚渫協会四国支部 技術委員会 委員長

(研究機関 2名)

- 国土研究開発法人 土木研究所 材料資源研究グループ長
- 国土研究開発法人 港湾空港技術研究所 特別研究官

(整備局 8名)

- 四国地方整備局 企画部長 外7名